

せせらぎ遊歩道ワークショップ通信

Vol.2

発行
平成 23年 11月 23日

せせらぎ遊歩道の使い方や整備方針を検討しています

川西市では、現在、中央北地区整備事業として農業用水路を活用し、新たな小川のような水路のあるせせらぎ遊歩道の整備を計画しています。

第2～4回ワークショップでは、せせらぎ遊歩道の具体的な整備イメージを作り上げていくために、「せせらぎ遊歩道で何がしたいか」「どんなイメージにしたいか」の意見交換からスタートし、それを実現していくためにどのような整備を進めていけばよいかを検討していきました。

●ワークショップの開催日程

第1回 7月31日(日) 趣旨説明 自己紹介 現地調査	第2回 9月12日(月) 暮らし方(使い方) の共有 (写真イメージゲーム)	第3回 10月3日(月) 暮らし方(使い方) の共有 (マップゾーニング)	第4回 10月31日(月) デザインの共有 (マップゾーニング)	第5～7回 11月～12月予定 デザインの共有 (計画案の抽出)	第8～9回 1～2月予定 育て方の共有 (整備後の 管理運営計画等)
------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------	--------------------------------------------------	--------------------------------------------------	-------------------------------------------------------

第2回ワークショップ 「せせらぎ遊歩道で何がしたいか」暮らし方(使い方)のイメージを共有する

せせらぎ遊歩道のある暮らし方のイメージについて、「イメージ写真」の中から自分の思いと似た写真を選び、意見交換を行いました。そして、せせらぎ遊歩道に訪れた人がどのような行為・行動で利用するのかを予想するなど、使われ方のイメージを膨らませながら、各班独自のキャッチフレーズの検討をしました。



第2回ワークショップの様子

第3回ワークショップ 暮らしのイメージを実現する「せせらぎ遊歩道」のイメージを共有する

せせらぎ遊歩道のある暮らし方のイメージを実現するためには「どんな整備を行っていくべきか」、また「どのような機能が必要か」を第2回ワークショップで決めたキャッチフレーズに基づきながら、「イメージ写真」を使って検討をしました。



第3回ワークショップの様子

第4回ワークショップ 望ましい「せせらぎ遊歩道」の空間イメージをデザインする

第3回ワークショップまでに出されたイメージをより具体的な整備イメージにしていくために250分の1の地図を使って平面図に落とし込む作業を行いました。



第4回ワークショップの様子

第2～4回 ワークショップの概要は以下のとおりです

A 班

キャッチフレーズ: 市民がつくる楽しいやされるまち

人・自然・ほこり(多世代がふれあい 自然やほこりを子どもに伝える)

キーワード: シンボル性、親水性、子ども、交流、里山、農風景、歴史文化

○暮らしのイメージ

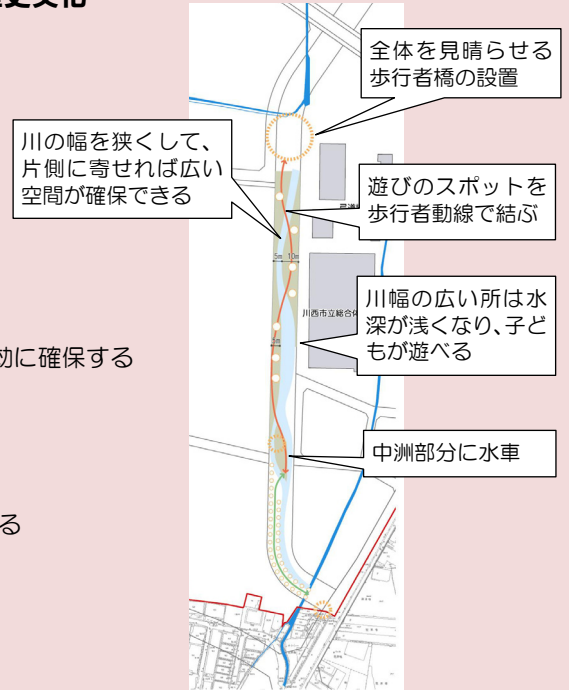
- ・水で遊ぶ、生物にふれる、水に近づく
- ・散歩ができる空間、自由に使える場所
- ・自然、花、樹木を楽しむ
- ・イベントでふれあう
- ・安全、安心の場
- ・市民が関わって作る・世話をする

○全体を通しての整備方針

- ・川幅を変化させて川の深い所、浅い所をつくる
- ・16mの幅をいっぱい使って、川のルートを曲げてスペースを有効に確保する
- ・遊歩道で実現させてコンセプトを中央公園側へも広げていく
- ・車いすの通行を確保するなどバリアフリー環境は確保する

○その他の意見のポイント

- ・子どもの遊び場を確保する
 - 飛び石や地形の変化、アスレチックのような遊具の設置を検討する
 - 大人のくつろぎの機能もあわせて使える遊具、空間も検討する
- ・川西の歴史を感じさせる場所を確保する
 - 水路を2つに分けて中洲の部分に水車を設置する
- ・南側の入り口部分はシンボリックな場所を確保する
 - モニュメントの設置、市民参加で管理する花壇



B 班

キャッチフレーズ: 生きもの天国 ～いやしのオアシス せせらぎタウン～

キーワード: 生物(命)、いやし、健康、憩い、交流、シンボル性、自然(四季)、農風景

○暮らしのイメージ

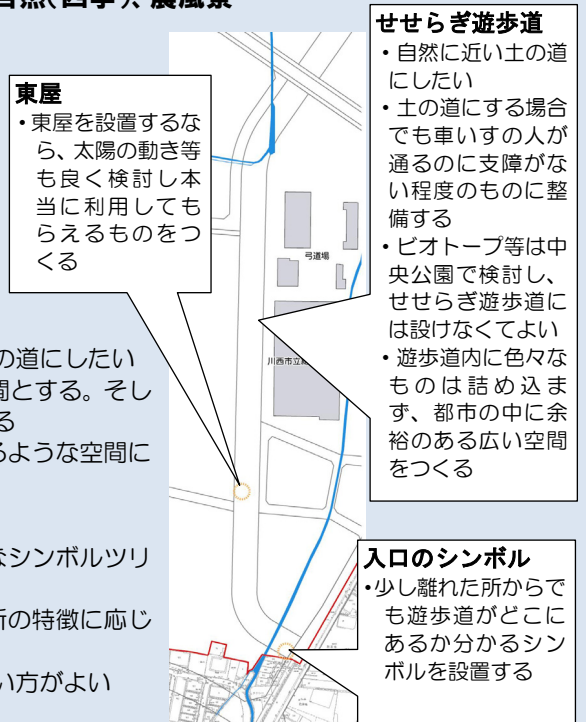
- ・命の大切さを学ぶ場
- ・人々の交流の場
- ・子どもから高齢者、犬も一緒に楽しく遊んだり散歩できる場所
- ・子どもが水に親しむ場所
- ・家族や友人とゆっくり語り合う場所
- ・待ち合わせ場所、集いの場のシンボル
- ・災害時の避難経路

○全体を通しての整備方針

- ・車いすの人でも通行するのに支障がない程度に平らに整備した土の道にしたい
- ・遊歩道内にはあまり色々なものを詰め込まず、余裕のある広い空間とする。そして、どこでもイベントが行え、舞台になるような広い空間にする
- ・例えば、夏や秋などに水路沿いに行燈を並べて、行燈祭りができるような空間にしたい

○その他の意見のポイント

- ・少し離れた所からでもせせらぎ遊歩道がどこにあるか分かるようなシンボルツリーや鳥居のようなアートを設置したい
- ・読書を楽しむ場所や井戸端会議の場になるように、それぞれの場所の特徴に応じたベンチを配置していく
- ・農業用水路であることから、農薬をまく必要がある樹種は植えない方がよい



C 班

キャッチフレーズ:きらめき体感 三世代へ！！

キーワード:バリアフリー、子ども、次世代、生物、四季、交流

○暮らしのイメージ

- ・子どもが自然（野生、恐怖）体験できる場所
- ・四季が感じられる場所
- ・市民が静かにゆっくり過ごせる空間
- ・日々の生活の中に溶け込むような空間
- ・誰もが利用できるようにバリアフリーの空間
- ・川西の街を盛り上げる、人が集う場所

○全体を通しての整備方針

- ・バリアフリーとして、誰もが使えるような歩道が1本は連続している必要がある
- ・それ以外に、部分的に自然に近い歩道が欲しい
- ・せせらぎについては、直線ではなくある程度蛇行した形の方がせせらぎに変化が出て良いだろう
- ・南の方から、シンボル花壇ゾーン、親水・里山ゾーン、人の手が加わったゾーンへと移っていくようなイメージが良い

○その他の意見のポイント

- ・北側の豊川橋山手線や中央公園の南東部分は車とせせらぎの利用者を分けるために立体的に交差する方がいい
- ・車道に面する部分は、せせらぎとは少し段差をつけるなどの工夫が必要
- ・どの季節にも、人が訪れるような花や実のなる木を植えて欲しい
- ・せせらぎを片側に蛇行させて空間を作り、段状にするなどして、人の集まれるような空間をつくりたい



D 班

キャッチフレーズ:自然が育む感性豊かな夢歩道 ~出会い・創造・よろこびを次世代へつなぐ~

キーワード:四季、交流、里山、生き物、シンボル性

○暮らしのイメージ

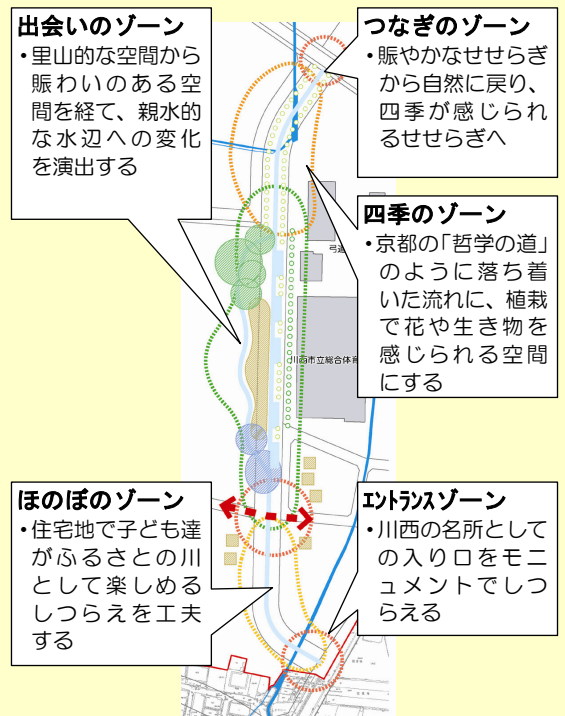
- ・子どもが安心して遊べる水路
- ・次世代のための空間づくり
- ・水路内に石等があり、生物が住める環境
- ・車いすでも散策できる遊歩道
- ・四季や1日の自然の変化を感じられる場所
- ・待ち合わせの場所のようにわかりやすく、行きたくなる場所
- ・子どもから若者、高齢者まで、皆が楽しみ、喜びを感じる空間
- ・水路に入って、自然の危険な部分も学ぶことができる場所

○全体を通しての整備方針

- ・全体に上流から下流に流れたストーリー性を持たせる
- ・周辺土地利用との関係性を意識して計画する

○その他の意見のポイント

- ・歩道はアスファルトではなく土にしたい
- ・植木は手入れが簡単で葉が落ちないものにしてはどうか
- ・ゆるやかなスロープで水辺に近づけるようにする
- ・せせらぎ遊歩道の入口に花壇を設け、皆で管理・運営すると良い
- ・魚や虫などの生き物が住みやすい環境にする
- ・中央公園の整備はせせらぎ遊歩道より後に行われるため、公園整備の際にせせらぎ遊歩道から支流を設け中洲を形成してもらえるとよい



コーディネーターの先生からの総評です

加我 先生 (大阪府立大学大学院生命環境科学研究科 准教授)

- 全ての班に共通して出てきた1つのアイデアとして「川を蛇行する」ということがあったと思います。「川を蛇行させる」と言うことは非常に意味があり、曲がることによって川幅の細いところも広がる場所も流れがきついところも出てきます。これらの変化によって、環境条件が多様になり、生き物が暮らしやすい環境になります。また、人にとっても環境が多様であることは意味があると思います。
- 東屋は太陽の動きを見ながら配置しなければならないといった意見や、ただ単に木を植えるのではなく、実のなる木が良いといった意見がありました。1つのことから様々な発想を行い、1つ1つの計画に意味を持たせてもらいたいと思います。



今西 先生 (NPO 法人 野生生物を調査研究する会 理事)

- 幅員 16m にどのような絵を描くか、私だったらどの様に描くのだろうかと、色々考えてみましたが、なかなか頭に思い浮かばない。非常に難しいと感じていました。
- 話し合いが始まると、様々な制約の中で、各班とも川幅を細くしたり、広げたりというアイデアや中洲といったアイデア等、様々な意見が出されており感心しました。
- 11月20日に京都へ事例見学に行かせていただきますが、見学する際には、整備された後の現状はどの様になっているのかもきちんと見ていただき、次のステップに反映していただきたいと思います。



澁野 先生 (写真家)

- 川西市の真ん中に、この様なせせらぎが出来ると言うことは素晴らしいことだと思います。将来整備される中央公園と一体的になった良い空間が出来るのではないかと考えています。
- 入口にシンボルをという話が出ていましたが、近隣の大学などと協力して製作できてよいと思います。
- 今後、景観についても意識しながら設計を進めていただきたいと思いますが、その時にはスケール感が大事になってきます。
- どのくらいの大きさの物をどこに配置したら景色が変わり、周りの景色にどの様にマッチングするのか、また、せせらぎの音との関わりなども考えながら設計を進めてもらいたいと思います。



●今後の予定

- 第5回せせらぎ遊歩道ワークショップ 日時：平成23年11月20日(日) 9時～17時
内容：先進事例視察
- 第6回せせらぎ遊歩道ワークショップ 日時：平成23年11月23日(水) 13時～15時半
内容：せせらぎ遊歩道を設計しよう①～計画案の抽出～
- 第7回せせらぎ遊歩道ワークショップ 日時：平成23年12月10日(日) 14時～16時半
内容：せせらぎ遊歩道を設計しよう②～最終計画案の確定～

〈連絡先〉川西市役所 中央北整備部 中央北推進室 地区整備課

〒666-8501 兵庫県川西市中央町12番1号 TEL:072-740-1207(直通) FAX:072-740-1330